

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この詩の山は再読文字「未」と「願はくは～ん」、そして「長恨」の意味です。※『長恨歌』は全百二十句と長いので、ここでは教科書によく採られる三か所——書き出しの八句（楊貴妃の登場）、寵愛をうたう四句、しめくくりの八句（二人の誓い）——を（中略）でつないで本文にしています。

あらすじ＝絶世の美女を求めていた皇帝（玄宗）のもとに、楊家の娘が選ばれて上がる。ひとたびほえめば後宮の女性たちが色あせて見えるほどの美しさで、三千人分の寵愛を一身に集めた。やがて安史の乱が起り、二人は死に別れる。皇帝の嘆きを見かねた道士がたずねあてた楊貴妃の魂は、「天では比翼の鳥、地では連理の枝に」という二人だけの誓いを託し、詩は「この恨みは絶えるときがないだろう」と結ばれる。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

漢皇（かんこう）^①色を重んじて^②傾国（けいこく）を思ふ 御宇（ぎよう）多年^③求むれども得ず

楊家（ようか）に女（むすめ）有り 初めて長成す 養はれて深閨（しんけい）に在り^④人未（いま）だ識（し）らず

天生（てんせい）の麗質（れいしつ）^⑤自（みづか）ら棄て難く^⑥一朝（いちよう）選ばれて君王の側（かたはら）に在り

眸（ひとみ）を回（めぐ）らして一笑（いっしょう）すれば百媚（ひやくび）生じ^⑦六宮（りくきゆう）の粉黛（ふんたい）^⑧顔色（がんしよく）無し

（中略）^⑨歡（かん）を承（う）け宴に侍して 閑暇（かんか）無く 春は春の遊びに従ひ 夜は夜を専（もっぱ）らにす

後宮の佳麗（かれい）三千人^⑩三千の寵愛（ちようあい）一身に在り

（中略）^⑪別れに臨みて殷勤（いんぎん）に重ねて詞（ことば）を寄す 詞中（しちゆう）に誓ひ有り^⑫両心（りようしん）のみ知る

七月七日^⑬長生殿（ちようせいでん）夜半（やはん）人無く 私語（しご）の時

天に在（あ）りては^⑭願はくは比翼（ひよく）の鳥と作（な）り 地に在りては願はくは^⑮連理（れんり）の枝と為（な）らん

天は長く地は久しきも 時有りて尽きん^⑯此（こ）の恨みは綿綿（めんめん）として 絶ゆる期（とき）無からん

語注 漢皇＝漢の皇帝。実際は唐の玄宗皇帝をさす（前の時代にことよせた言い方）。傾国（けいこく）御宇＝天下を治めている間。長成＝成長して年ごろになること。

閨＝家の奥にある女性の部屋。天生の麗質（てんせいれのいしつ）一朝（いちよう）君王（くんおう）眸（ひとみ）百媚＝あふれるほどのなまめかしさ・愛らしさ

六宮＝後宮。きさきたちの住まい。粉黛（ふんたい）閑暇（かんか）佳麗（かれい）美しい女性。殷勤（いんぎん）心をとめて。長生殿＝宮中の御殿の名。驪山（りざん）の華清池（けいけい）

宮にあつたとされる。私語（しご）二人だけのささやき。比翼（ひよく）の鳥＝めすとおすが目も翼も一つずつしかなく、二羽並んではじめて飛べるという伝説の鳥。連理（れんり）の枝＝別々の木の枝が途中でつながって一本になったもの。綿綿（めんめん）※（中略）＝一つめは華清池での入浴など寵愛の場面、二つめは安史の乱（七五五年）での死別、玄宗の嘆き、道士が楊貴妃の魂をたずねる場面。

道士が楊貴妃の魂をたずねる場面。

長恨歌

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ①「色を重んじて」とは、皇帝が何を第一にしていたということか。
- (2) ②「傾国(けいこく)」の意味を書け。
- (3) ③「天生(てんせい)の麗質(れいしつ)」の意味を書け。
- (4) ④「一朝(いちちよう)選ばれて君王の側(かたはら)に在り」の「一朝」の意味を書け。
- (5) ⑤「六宮(りくきゆう)の粉黛(ふんたい)顔色(がんしよく)無し」の「粉黛」は、もともと何を指す語か。またここでは何をたとえているか。
- (6) ⑥「七月七日」は何の日か。
- (7) ⑦「此(こ)の恨みは綿綿(めんめん)として 絶ゆる期(とき)無からん」の「綿綿」の意味を書け。

B 句法 (8～13)

- (8) ⑧「求むれども得ず」の「ども」は、前後をどのような関係でつなぐ語か。順接・逆接のどちらかで答え、そう判断できる根拠(直前の活用形)も書け。
- (9) ⑨「人未(いま)だ識(し)らず」の「未」のような字を何というか。名称と、ここでの読み方・意味を書け。
- (10) ⑩「自(みづか)ら棄て難く」の「難」の意味を書け。また、白文「難自棄」に返り点を付けよ。
- (11) ⑪「眸(ひとみ)を回(めぐ)らして一笑(いっしょう)すれば百媚(ひやくび)生じ」の「すれば」は、どのような条件を表すか。
- (12) ⑫「願はくは比翼(ひよく)の鳥と作(な)り」・⑬「連理(れんり)の枝と為(な)らん」の「願はくは」は何を表す言い方か。また、それを受けて文末はどう結んでいるか。
- (13) ⑭「絶ゆる期(とき)無からん」の「ん」の意味・用法を書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ⑥ 「自(みづか)ら棄て難く」とあるが、棄てられず(埋もれさせておけず)にいたのは何か。

(15) ⑦ 「一朝(いちちょう)選ばれて君王の側(かたはら)に在り」の「君王」とは、だれのことか。

(16) ⑪ 「両心(りょうしん)のみ知る」の「両心」とは、だれとだれの心か。

(17) ⑬ 「願はくは比翼(ひよく)の鳥と作(な)り」・⑭ 「連理(れんり)の枝と為(な)らん」は、もともとだれとだが、いつ・どこで交わした言葉か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ③ 「求むれども得ず」を口語訳せよ。

(19) ⑧ 「眸(ひとみ)を回(めぐ)らして一笑(いっしょう)すれば百媚(ひやくび)生じ」を口語訳せよ。

(20) ⑨ 「六宮(りくきゅう)の粉黛(ふんたい)顔色(がんしよく)無し」を口語訳せよ。

(21) ⑮ 「此(こ)の恨みは綿綿(めんめん)として 絶ゆる期(とき)無からん」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑩「三千の寵愛（ちようあい） 一身に在り」とあるが、これは楊貴妃がどのような立場にあったことを表しているか。三十五字以内で書け。

(23) ⑬「願はくは比翼（ひよく）の鳥と作（な）り」・⑭「連理（れんり）の枝と為（な）らん」で、二人はこの二つを重ねて何を表そうとしているか。

また、ここから生まれた四字の言葉を書け。

(24) ⑮「此（こ）の恨みは綿綿（めんめん）として 絶ゆる期（とき）無からん」は、題名『長恨歌』とどう結びついているか。説明せよ。

(25) （あらすじ欄も参考にして）この詩は、前半（傍線①～⑩のあたり）と後半（傍線⑪～⑮のあたり）とで、二人の関係がどのように変わっているか。

四十字以内で書け。

F 文学史 (26～28)

(26) この詩の作者はだれか。本名と字（あざな）、および唐のどの時期の人かを書け。

(27) この詩の詩形を書け。また、全体で何句あるか。

(28) この詩を下敷きにしていることで知られる『源氏物語』の巻の名を書け。また、その巻でこの詩の二人と重ねて描かれるのはだれとだれか。

【テスト直前チェック】この三つ ①再読文字「未」は「いまだ～ず」。④「人未だ識らず」＝「(世間の) 人はまだ知らなかった」。名称・読み方・意味の三つをまとめて聞かれます。②「願はくは～ん」は願望。⑬「願はくは比翼の鳥と作り」・⑭「連理の枝と為らん」。二つセットで「比翼連理」＝決して離れない深い愛、と答えられるように。⑤記述の答えは最後の一句に集まる。⑮「此の恨みは綿綿として絶ゆる期無からん」が、そのまま題名「長恨（＝長く消えない恨み）」の意味です。